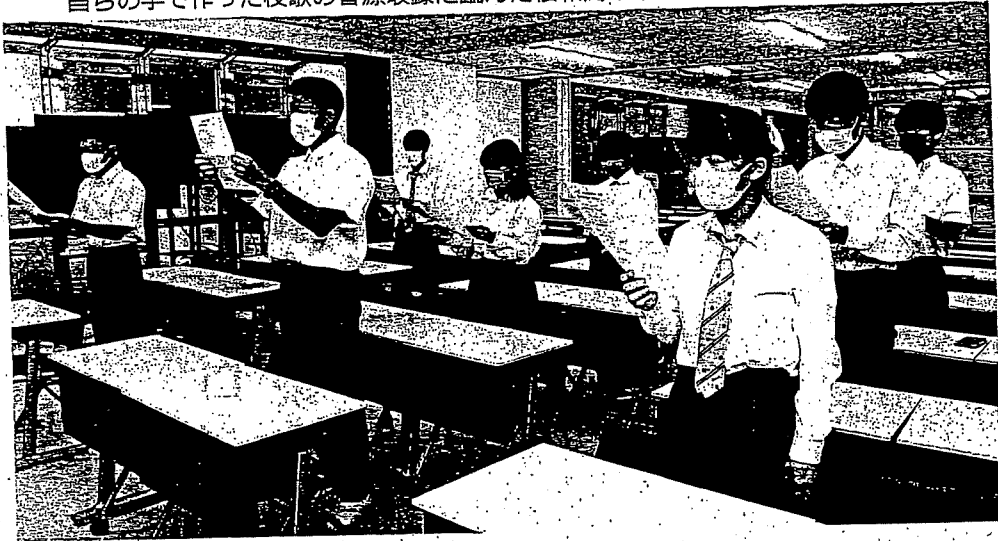


自らの手で作った校歌の音源収録に臨んだ桜和高の1年生ら (大阪市北区で)



桜和高校歌 生徒の手で

「全ての願い 一つになれ」。少
子化を背景とした高校再編によって今
春誕生した府立桜和高校(大阪市北区)
の生徒たちが、自らの手で校歌を完成
させた。なじみやすい軽快な曲調で、
多様な個性を認め合うという理想を歌
詞に込めた。2日の開校記念式典で披
露する。(三浦孝仁)

少子化で再編 今春開学

桜和高は、大阪市立の属町総
合(北区)、西(西区)、南(中
央区)の3校が統合して開校。
現在、属町総合の校舎で桜和高
1期生となる1年生と再編前
の3校の2、3年生が学んでい
る。
生徒による校歌制作は、「主
体的に学ぶ力や創造力を育も
う」と企画。曲は校内公募で
寄せられた17点を教職員らが
審査し、属町総合を今春卒業
した女子生徒2人の作品を選
んだ。
歌詞は、1年生の有志約20人
で共作。3部構成とし、1番は

等身大の感性、価値観 表現

入学式をイメージした内容で、
地域のシンボルである大川沿いの
桜が春風に揺れる情景を描い
た。2番は多様な個性が集う高
校生活を、3番では卒業後も続
く友情を表現した。未来を築く
同世代へ呼びかけるメッセージ
として、△遙かな未来 さあ造
り出そう△次なる世界へ 駆
け出そう△などの言葉も盛り込
み、「等身大の高校生生の感
性」と価値観を大切に、言葉
と表現にこだわった。校歌を通じ
て生徒の心が一つになればうれ
しく、と話した。

著名人の作曲例も

文部科学省の今年度の学
校基本調査(速報値)によ
ると、府内の高校生は約20
万3000人で、20年前か
ら約4万5000人減少し
ている。こうした状況に
じて学校の再編が進められ
ており、新しく学校が誕生
するのに伴って校歌も次々
と生まれている。
中には著名人が携わった
ユニークな校歌もあり、2
004年に開校した府立が
わち野高(東大阪市)では、
地元出身で財務相や官房長
官を歴任した塩川正十郎さ
んと音楽プロデューサーの
つんくさんが制作にあた
った。09年に誕生した府立
懐風館高(羽曳野市)の校
歌は、歌手の田中星児さん
が作曲し、1期生が歌詞を
手がけた。
今回の桜和高のような
「生徒のみ」での校歌制作
について、府教委の担当者
は「後輩に長く歌い継がれ
ていくことは誇らしく、生
徒たちの自信になるだろ
う」とする。

佐賀・長崎へ 観光団体列車

JR新大阪駅で出発式

とあいさつ。JR東海、J
R西日本の新大阪駅長らと
出発する列車を見送った。
JR西の福島純営業本部



午前11時、JR東海、JR西日本の新大阪駅長らと、佐賀・長崎へ観光団体列車の出発式が行われ、出発する列車を見送った。